

この治療器は、予約なしに出来ます。

SSP 治療

SSP 療法は、今から 45 年前の 1976 年、大阪医科大学麻酔科と日本メデックスとの共同研究によって開発された針を用いない鍼(はり)療法です。数多くの基礎研究・臨床研究が行われ、療法の安全性と効果はすでに実証されております。但し、整形外科の分野に導入されたのは比較的最近のことで、体性-自律神経反射という生理学的メカニズムが明らかにされたことによって、ツボ刺激の効果が研究者の間で広く知られるようになってからのことです。

SSP の電極の形と材質は、ツボに電流が効果的に流れるように数多くの基礎実験によって決めたものです。また、ツボに効果的な刺激を与えるための入力電流にも電圧・振動数・振幅などに特別な設定を行っています。

治療の際に、**SSP 電極**は患部の圧痛点と遠隔点の両方に置きます。圧痛点には即効性、遠隔点には持続性効果のある電流を入力します。

自由な肢位で治療ができるので、**SSP 療法**の疼痛緩和効果を実感してください。



鍼(はり)治療

SSP 治療のもととなった鍼治療についての本からの抜粋です。

川嶋朗監修:これからの東洋医学、日本文芸社からの抜粋

1. テニスプレイヤーの錦織圭、横綱白鳳、フィギュアスケートの羽生結弦、三人のアスリートに共通しているのは、鍼治療を受けていることです。羽生選手は鍼治療の前後では“体の動きが全然違う”とインタビューで答えており---“。
2. 筑波大学では、鍼を電極とし、つぼ(経穴)を電極的に刺激することで、通常の鍼治療だけでは得られない、より広範囲で高い効果を得ることを目的とした低周波ツボ通電療法を臨床応用する試みがされています。この際、刺激部位を古典的なツボ理論だけで考えるのではなく、解剖学的な知見による組織のちがいによって分類することで、施術効果の再現性を高めたり、施術者の違いによる効果の差を少なくしたりできるといった工夫も加えています。

NHK・からだと健康から

“今、世界各国のスポーツ選手が、鍼灸(しんきゅう)を日常的なコンディショニングに取り入れています。鍼(はり)による筋疲労の緩和など、その効果の検証も進められつつあり、東京オリンピック・パラリンピックでは、選手村で鍼灸の資格を持つトレーナーたちが選手をサポートする予定だといわれています。”